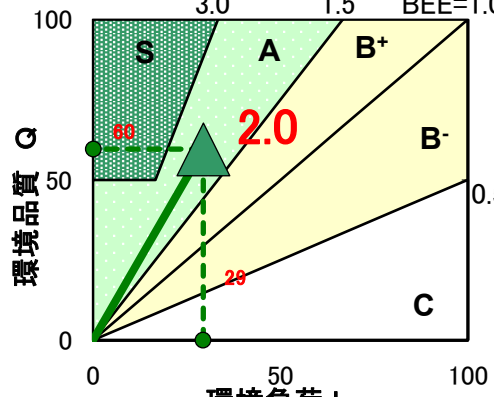
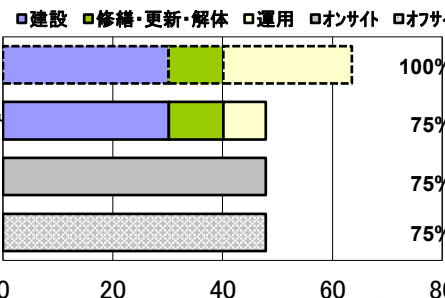
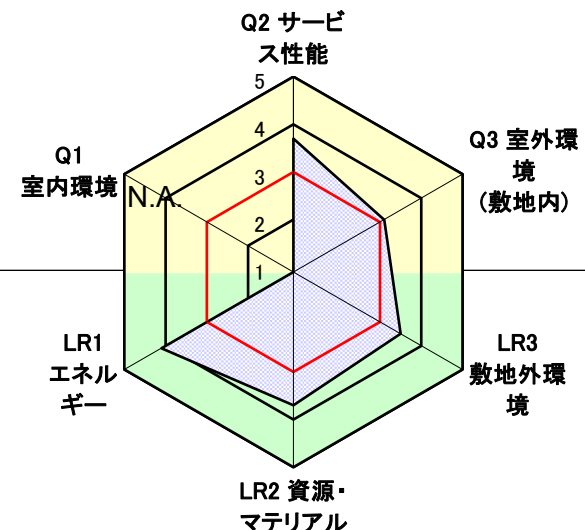
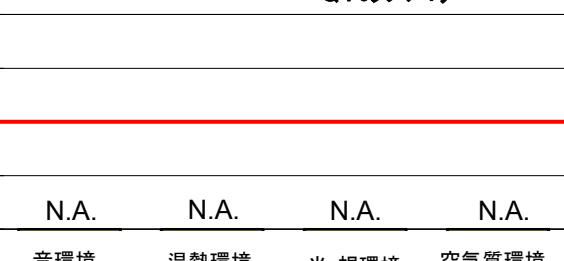
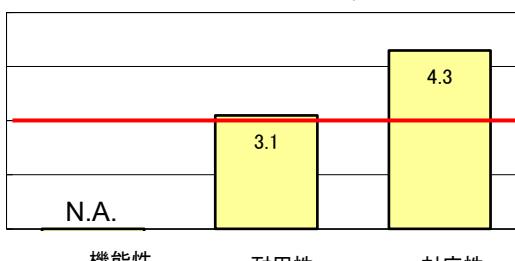
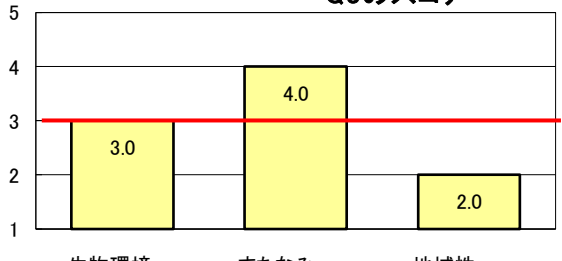
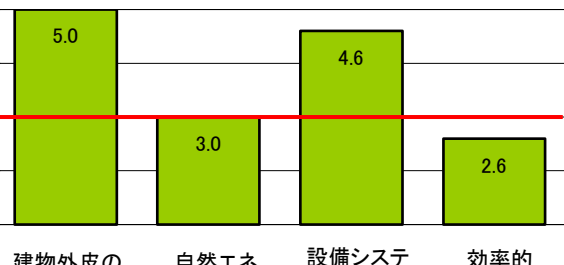
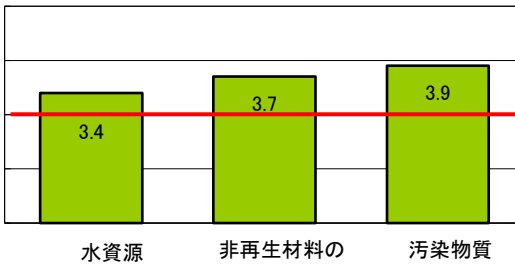
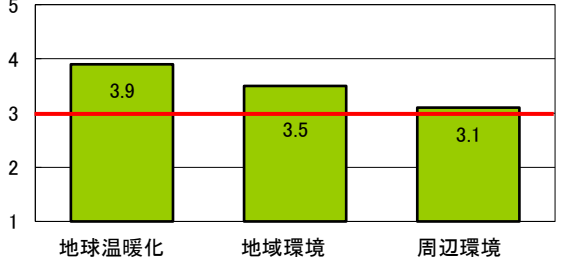


CASBEE[®]-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	Landcube八千代	階数	地上4F		
建設地	千葉県八千代市	構造	SRC造		
用途地域	工業専用地域・工業地域、法22条地域	平均居住人員	220 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価		
竣工年	2026年2月 竣工	評価の実施日	2026年4月30日		
敷地面積	25,092 m ²	作成者	株式会社フジター級建築士事務所		
建築面積	14,977 m ²	確認日	2026年4月30日		
延床面積	53,806 m ²	確認者	株式会社フジター級建築士事務所		
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)		
BEE =2.0 			 このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC 排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEI+で表示しています。		
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)					
2-4 中項目の評価(バーチャート)					
Q 環境品質 Q のスコア= 3.3 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0  Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7  Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1 					
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.8 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1  LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7  LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.5 					
3 設計上の配慮事項					
総合 ・千葉県八千代市に位置する倉庫業を営む倉庫である。 ・広大な敷地には緑地を積極的に設け、周辺地域への配慮を行った敷地計画である。				その他 —	
Q1 室内環境 ・評価対象外		Q2 サービス性能 ・補修必要間隔の長い外壁・内装仕上げを採用し、ライフサイクル計画の長寿命化を図った。 ・壁長さ比率や天井高、荷重に余裕を持たせゆとりのある空間とした。		Q3 室外環境(敷地内) ・景観に配慮し、外からの見え方の検討や豊かな植栽を採用した外観計画とした。	
LR1 エネルギー ・LED照明器具の採用により、エネルギー削減を図った。		LR2 資源・マテリアル ・自動水栓や省水型機器を用いた。 ・使用する材料に配慮しており、Hyper-MEGA工法による材料使用量の削減やエコマークやグリーン購入法対象品などのリサイクル材を採用し、資源保護に努めた。		LR3 敷地外環境 ・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。 ・車の出入り口は十分な幅を確保し、自動車の渋滞緩和に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版			■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版				
Landcube八千代			■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22				
スコアシート		竣工段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.3
Q1 室内環境				-		-	-
1 音環境			-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル			-	-	-	-	
	1.2 遮音		-	-	-	-	
	1	開口部遮音性能	-	-	-	-	
	2	界壁遮音性能	-	-	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	
	1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境			-	-	-	-	-
2.1 室温制御			-	-	-	-	
	1	室温	-	-	-	-	
	2	外皮性能	-	-	-	-	
	3	ゾーン別制御性	-	-	-	-	
	2.2 湿度制御		-	-	-	-	
	2.3 空調方式		-	-	-	-	
			-	-	-	-	
3 光・視環境			-	-	-	-	-
3.1 昼光利用			-	-	-	-	
	1	昼光率	-	-	-	-	
	2	方位別開口	-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	-	-	-	-	
	3.2 グレア対策		-	-	-	-	
	1	昼光制御	-	-	-	-	
			-	-	-	-	
3.3 照度			-	-	-	-	
3.4 照明制御			-	-	-	-	
4 空気質環境			-	-	-	-	-
4.1 発生源対策			-	-	-	-	
	1	化学汚染物質	-	-	-	-	
	4.2 換気		-	-	-	-	
	1	換気量	-	-	-	-	
	2	自然換気性能	-	-	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	
	4.3 運用管理		-	-	-	-	
	1	CO ₂ の監視	-	-	-	-	
	2	喫煙の制御	-	-	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.43	-	-	3.7
1 機能性			-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	
	1	広さ・収納性	-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	-	-	-	-	
	3	バリアフリー計画	-	-	-	-	
	1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
	1	広さ感・景観	-	-	-	-	
	2	リフレッシュスペース	-	-	-	-	
	3	内装計画	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	
	2	維持管理用機能の確保	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.1	0.50	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	3.0	0.20	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上り材の補修必要間隔	2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上り材の更新必要間隔	5.0	0.10	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	5.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.20	-	-	
			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	4.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高:6.2m	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.07	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		床用:15000N/㎡	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック配線および配管配線方式	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック配線および配管配線方式	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	3.1	
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		視点場からの良好な景観形成に配慮	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.8
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.65	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.33	4.6	0.50	-	-	4.6
	集合住宅以外の評価			4.6	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み			2.6	0.20	-	-	2.6
	集合住宅以外の評価			2.6	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.40	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	2.0	0.40	-	-	
	4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10	-	-	
	4.4	コミショニングの推進	—	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.7
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
	2.1	材料使用量の削減	Hyper-MEGA工法の採用 他	4.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を2品目用いている	4.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法非該当の建材種別が4つ以上ある	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP<10の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		WLC排出率:75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.50	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.50	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	風害対策に対する要請がない	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光源は、総合効率の高いものを採用	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-		-	-	-	-	-								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	3.0		-	-	3.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	1.0	-	3.0	1.0	-	-	2.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	-	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
昼光率	0.0%			
自然換気有効開口面積率	0.0%			

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上り材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上り材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	6.2 m					
壁長さ比率	7.0%					
床荷重	15000 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	34%	建物緑化指数	0%				
空地率	40%	水平投影面積率	6%	地表面対策面積率	15%	舗装面積率	33%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

BPI/BPI _m	0.65	断熱等性能等級	対象外	相当				
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数		0.0%	採光を満たす住戸数		0.0%	
		通風を満たす教室数		0.0%	通風を満たす住戸数		0.0%	
		太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kWh	
BEI/BEI _m	再エネ有	0.33	無	0.33	オフサイト再エネ有	－ ○○GJ/年		
一次エネ削減率	再エネ有	#####	無	#####	－			

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%			
特定調達品目	ビニル床シート(東エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%			
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3	
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	91% 隣棟間隔指標Rw 3.22								
地表面対策面積率	20.0%		屋根面対策面積率	0.0%		外壁面対策面積率	#DIV/0!		
見付面積Sb	2.060㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	102.211 m	基準高さHb	21.92 m				
緑地	2.776㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡